

蛇の祈り 江連 博

溺死の獣のかすかに息づいている室内楽の鳴る午後
の街はマン、壁と砂と蛇の苦い眠りの街はマン、
樹皮のようにあらう穴だらけの文盲の街はマン、
霧のように毛髪がぎつしりと窓枠にへばりついで
る午後の街はマン、白い肉塊のような時計塔の垂
れさがる穴だらけの午後の街はマン、飛べない犬
のくびれた洋傘の下の爬虫類の顔、蛆だらけのぼろ
ぼろに崩れるパン屑の骸のふくらむ風船の下の類人
猿の顔、眠る海の室内楽、その黄金の森の絞死体、
溺死体の群がる街角を曲がると、カンナが犬のよう
な真赤な舌を垂らしている海辺である、積乱雲がト
ルソーのように崩れ山のような海、輝く海が見えて
くる、白砂の上の蛇の祈り、花のようなトルソーの
蛇の祈り、壁と砂と蛇の苦い祈り、午後一時、海
の中にとてつもなく巨大な水沫がさがり光のように亀
頭状に広がるもの、緑の海に浮く花弁のような溺死
体の群、ああ、アブサロム、アブサロム、われ汝に

かわりて死にたらんものを、真赤な舌の垂れている
カンナの群生する街角の方を眺めると家という家の
窓は閉ざされぬけるような青空をさらきりと流れる
もの、ああ、おれは何をしているのだと走り出すお
れを引き止めるもの、松影のひんやりとする白砂、
のめりくねりくだけさげぶ波また波のくりかえし、
死んだ祖母の胸の窪みの蝙蝠のような赤い痣あとを
思い出すおれの足を舐める波また波のくりかえし、
むなしくこぼれおちる輝く時の中に立ちつくすおれ
を包みこむ真昼間の闇、闇、類人猿の孤独、蛇の祈
り、ぶるるる、ぶるるる、ぶるるる、燃える電柱、
燃える樹木、地獄草紙の餓鬼の群、鮎のようにとろ
ける肉、口は暗い穴ぼこ、樹皮のようにあらう女の
眼球のぎつしりと窓枠にへばりついでる午後の街、柘
腸詰めのような焼死体の群がつている午後の街、柘
榴のような赤むきの焼死体の群がつている午後の街、
輝く真昼間の死の影の街、壁と砂と蛇の苦い祈り、
類人猿の祈り、闇の中の死の影の街よ、類人猿のよ
うに眠れ、蛇のように眠れ、ああ、むなしく輝きわ
たる真昼間の海の、蛇の祈り。